

季節の話題・旅だより

8月
August

号

立秋を前に、まだまだ暑さ厳しい毎日ですが、
いかがお過ごしでしょうか…

今年の夏も新型コロナウイルス感染者が全国的に
再拡大しています。

感染対策をしっかりとしながら、熱中症や夏バテにも
十分気をつけて過ごしましょう。

今年も残念ながらコロナ禍でのお盆休みを
迎えそうです。

コロナの状況を見極めつつ、ご自宅でも
お出かけ先でも、それぞれ思い出に残る
充実した時間をお過ごしください。





いよいよ夏本番！朝から容赦ない暑さの8月になりました。
厳しく照り付ける夏の日差し、ひまわりの鮮やかな夏色が元気をわけてくれます。
夏にしか作れない特別な思い出をたくさん作ってくださいね。

立秋

2022年の立秋は8月7日

季節としてはまだ夏。暑さがピークに達する頃ですね。

でもこの時期には、ひぐらしが鳴き始め、夕方には涼しい風が

吹くこともあり、秋の気配をどことなく感じます

まだまだ汗ばむ季節に立秋を迎えるわけですが、

少しずつ風の中に秋も感じるようになります。

立秋を境に「暑中見舞い」から「残暑見舞い」に変わります。

立秋を過ぎた残暑の頃は、最も暑さが身体に堪える時期。

溜まった夏の疲れにより、体調を壊しやすい時期でもありますね。

夏の暑い頃は「暑中見舞い」として便りを出すのが一般的ですが、

秋をそろそろ迎える頃となる立秋を境に「残暑見舞い」に変わり

残暑の中での体調を「ご自愛ください」と気遣います。

夏のまぶしい太陽の下、一面に大輪の黄色い花を咲かせるひまわりは漢字で「向日葵」と書きます。

太陽の動きにつれて、その方向に向かって成長して花も動くように見えることから、そう名づけられました。

英語では「Sunflower(サンフラワー)」、フランス語では太陽を意味する

「Soleil(ソレイユ)」と呼ばれ、太陽と強く結びついた花というイメージは、世界共通のようです。

向日葵は7月20日の誕生花であり、夏の季語でもあります。

気象衛星の「ひまわり」という名前は、衛星が地球に対して常に同じ向きであることから

名付けられたそうです。

大きなひまわりの花は小さな花がたくさん集まってできた花・・・

外側の黄色い花びらは花を目立たせて花粉を運んでくれる虫たちを

集めるための花で、中にある茶色の粒々のようなところも

それぞれが小さい花🌻なんですよ

立秋はお盆の時期に重なる

また立秋の頃は、お盆とも重なります。そのため、この時期はご先祖様や親戚縁者と
交流をするとき。1年の中でも家族みんなが心を寄せ合う大切な時期とされています。立秋を
迎えた頃に家族で集まり、そしてこの時期を過ぎると、みなそれぞれ日常に戻っていくのです。

8月13日から16日にかけて行われる、日本の伝統行事「お盆」の正式名称は

「盂蘭盆会」地域にもよりますが、8月13日を先祖の霊を迎える「迎え盆」と、

再び送り出す16日の「送り盆」までの4日間をお盆とするのが一般的です

ナスとキュウリで作る精霊馬

精霊馬は牛馬ともいい、

先祖の霊の乗り物で、

家に帰ってくるときは

「キュウリの馬」で

早く戻ってきてもらい

あの世へ戻るときは

「ナスの牛」に乗って

ゆっくり帰ってもらうという願い

が込められています。



お盆と関係が深い行事

お盆の最終日8月16日に行われる京都の伝統行事「五山の送り火」

お盆にお迎えしたご先祖様の霊を再び浄土にお送りする、精霊送りのかがり火を

五つの山で焚く行事です。街の灯りも消え

東から西へ「大文字」→「妙法」→「船」→「左大文字」→「鳥居」の順に次々点火されてゆく送り火は、

約1時間静かに燃え続け、その間、京都市内は幻想的な雰囲気になります。

美しい夜の光景を演出すると共に、夏の終わりを知らせる、どことなくもの寂しさを感じさせてくれる行事でもあります。

精霊を迎え、もてなすための行事・盆踊り

盆踊りには、お盆に帰って来る精霊をお迎えし、もてなし、慰め、送り出すという意味があります。

「帰ってくる」ご先祖様や精霊たちを、心から楽しませてあげたい、そのような願いが込められています。

又盆踊りは日本各地で行なわれる夏のポピュラーな行事でもあります。

日本三大盆踊り

阿波踊り(徳島県)8/12～15 踊り子の数や観客数では日本一の盆踊り

西馬音内の盆踊り(秋田県羽後町)8/16～18の夜

1981年、国の重要無形民俗文化財に指定

郡上踊り(岐阜県郡上市)8/13～16の盆期間4日間がメイン、32夜に渡って

踊ることができる。1996年、国の重要無形民俗文化財に指定

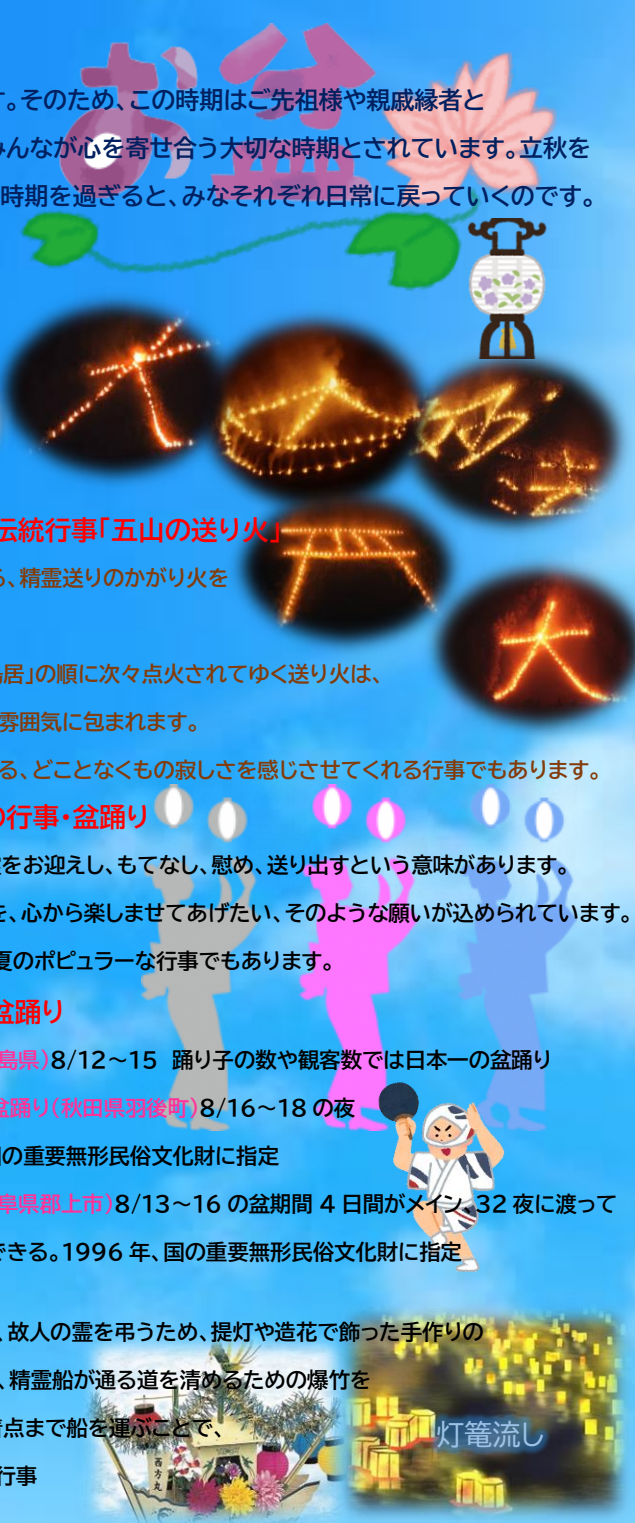
精霊流し

お盆の前に亡くなられた方のご遺族が、故人の霊を弔うため、提灯や造花で飾った手作りの

「精霊船」という船に故人の霊を乗せて、精霊船が通る道を清めるための爆竹を

鳴らしながら、「流し場」と呼ばれる終着点まで船を運ぶことで、

西方浄土へ送り出すという長崎の伝統行事



8月15日、戦後77年目の「終戦の日」を迎えます。

1945年8月14日、政府はポツダム宣言を受諾し、翌15日の正午、昭和天皇による玉音放送によって日本が無条件降伏したことが国民に伝えられました。これにより第二次世界大戦が終結…

内務省の発表によれば、戦死者は約212万人、空襲による死者は約24万人

1982年4月の閣議決定により「戦死者を追悼し平和を祈念する日」となりました。



広島平和記念資料館



原爆の子の像



平和の灯



世界遺産・原爆ドーム



原爆死没者慰霊碑



長崎・浦上天主堂

世界で初めて投下された原子爆弾がもたらした惨禍を今に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和を求めて開設された平和記念公園は世界的建築家・丹下健三氏によって設計されました。平和記念公園の中にある『原爆死没者慰霊碑』も彼の作品です。2016年、アメリカの現職大統領としてオバマ氏が初めて献花した場所でもあります。

このアーチが作る空間の先に見えるのは『原爆ドーム』です。1949年に行われたコンペで、丹下健三氏は、原爆ドームから平和記念公園に対面する道路に向かって一本引いた軸を中心軸に、慰霊碑と広島平和記念資料館を配置するとう提案をしました。一つの平和記念塔を造ることで完結するような提案がほとんどを占める中、計画の想定外だった原爆ドームを中心に据えて公園を設計したのは丹下健三氏だけでした。当時は撤去するべきという意見が多数だった原爆ドームを、原子爆弾の悲惨さを伝えるため、人類が二度と原子爆弾を使用しないためにシンボルとして残すべきだと必死に訴え、どんなに反対されてもその信念を曲げなかったといえます。

8月6日…そして9日は原爆の犠牲者のご冥福を悼み
広島・長崎の人々の思いに寄り添い静かに平和への祈りを捧げましょう

8月6日 広島平和記念の日

8月6日は77年前に広島に原爆が投下された日です

1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分、米軍は広島市上空約9600メートルで世界初の原子爆弾リトルボーイを投下し、上空約600メートルで爆発…

広島市街は壊滅し、1945年12月末までに約14万人が死亡したと推計されています。



8月9日 長崎県民祈りの日

8月9日は77年前に長崎に

原爆が投下された日です

1945年8月9日午前11時2分、長崎市に米軍が原子爆弾を投下しました。7万人以上が死亡したとされ、77年が経つ今も多くの人々が健康被害に苦しんでいます。昨年1月に核兵器の開発や製造、使用などを全面的に禁じる「核兵器禁止条約」が発効してから2年目の「長崎原爆の日」広島への原爆投下から3日後の8月9日午前11時2分、長崎にアメリカ軍B-29爆撃機から2発目の原子爆弾が投下されました。その威力は広島への1.5倍であり、甚大な被害を及ぼしました。9日朝は警戒警報が出ていましたが、午前10時には解除され、多くの市民が仕事や学校へ赴き生活している中で突如起きた悲劇でした。



長崎 片足鳥居



永井博士の家・如己堂

神の愛と仏の慈悲を象徴したと伝えられる巨大な平和祈念像の前で
恒久平和を願う祈りが捧げられ…街の至るところに原爆の傷跡が

残りながらも美しい教会やステンドグラス、鐘の音に癒される街、長崎…

永井博士が報筆した「この子を残して」や「長崎の鐘」は何度読んでも

胸が熱くなります。長崎医大に勤める彼自身の長崎での体験・原爆や

平和への思い、戦争の悲惨さ、原爆の怖さ…そして小さな子供を残して

やがて亡くなるのだろうか…という無念さが綴られ、長崎の鐘の歌は

サトウ・ハチローが詞を 古関裕而がメロディーをつけた長崎を代表する

歌の1曲です。県内被爆者の平均年齢が85歳を超える中、被爆体験の

継承は大きな課題となっています。



「山の日」は、2014年に制定された国民の祝日で、はじめたのは2016年です。

「山の日」が制定されるきっかけとなったのは、作曲家・船村徹氏の「海の日があるのに山の日がないのはおかしい」という提言によります。それを機に、日本山岳協会をはじめとした5団体による

「山の日」制定協議会が発足され、「山の日」制定へ動き出したのだそうです。

1996年に新設された「海の日」以来、20年ぶりに新設された祝日。

これまで祝日の制定がなかった8月に、初めて制定された祝日です。

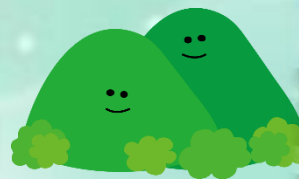
もともとは、お盆休み(一般に8月13日～16日)と連動させやすい日として、

8月12日が最有力候補でした。ただ8月12日は、1985年、群馬県・御巣鷹山に

日本航空123便が墜落する事故が起きた日でもあるため、反対意見も出て、

最終的に1日ずらした8月11日に決まりました。

海 VS 山



漢数字の「八」が未広がりで見えること、
「11」は木が立ち並ぶようにも見えることから、
むしろ山の日になさわしい…という意見もあります。

「海の日」の設立に微力ながらも協力した覚えがある」という船村氏のコメントによると、

太古から信仰的にも実生活的にも人類にとっては「山・海一体」であり、山の日をつくることで「山・海の友情」を厚くしようではないか…とのこと。

日本の山の中で3,000m峰の数は全部で23座ある。そのうちの15座(県境が接している山12座)が長野県にあり全国一です。

長野県には日本アルプスをはじめとする美しい山が連なり、まさに日本の屋根



「山の日」と「山の日の歌」

祝日「山の日」制定記念曲「山はふるさと」2016年8月11日発売！

祝日「山の日」の制定を記念した「山の日の歌」を8月11日の祝日当日にシングル発売。

【人類にとって“山海一体”なのだ。】との想いから「山の日」を提唱した作曲家・船村徹氏が総合プロデューサーとなり、山の良さを伝える歌詞を毎日新聞社を通じて広く一般に公募。

その中から「山はふるさと」が選出。作曲は都倉俊一、歌唱は加藤登紀子さん

8月12日

航空安全の日

茜雲忌

坂本久さんの命日



1985年8月12日。日本航空 JAL123 便が御巣鷹山に墜落してから、もうすぐ37年目を迎えます。

「上を向いて歩こう」や「明日があるさ」など、数々の名曲を残した歌手の坂本九さんが

昭和60年の日航ジャンボ機墜落事故で亡くなってから今年8月で37年になります。

坂本さんが戦時中に疎開し、幼少期の約4年間を過ごした茨城県笠間市では、

今でも坂本さんの旧居が保存され、街には歌も流れています。



笠間稲荷

1971年、笠間稲荷で柏木由紀子さんと式を挙げたことは、今も市民の自慢。

披露宴では大好きだったカレーをふるまい、その後、市内をパレードしたそうです。

日航機事故で命を落とした時にも、笠間稲荷のペンダントが遺体の身元を特定する決め手となりました。笠間の街はあの笑顔と歌声の原点となった坂本九さんの思い出の場所なのです。



「坂本九」さんが戦時中、笠間に疎開して少年時代をすごした住居「九ちゃんの家」

坂本久さんは2歳から約4年間、母親の実家がある笠間市に疎開していました。

当時暮らしていた赤い屋根の家が、今も空き家として山麓に残っています。

傷みがひどく、中には入れませんが、地元の有志で作った「笠間・九ちゃん会」が修復や草取りなどを行い、保存に努めています。

お亡くなりになったあとも、笠間市民とは音楽でつながっています。防災行政無線

では、正午に「上を向いて歩こう」、午後5時に「見上げてごらん夜の星を」が流れ、

市内のJR笠間、友部、岩間の各駅では坂本さんの曲が電車の発車メロディーとして

使われています。また、市役所の電話の保留音を「幸せなら手をたたこう」に統一…

笠間市民にとって坂本九さんとは、偉大なる国民的スターであると同時に、

笠間を愛する同胞のような存在なのかもしれません。